

平成30年度社会福祉法人福鳳会事業計画書

1 法人の基本理念

福鳳会は、つぎの「基本理念」を、運営の目標、経営判断の基準及び職員の行動規範として、引き続きその実現を旨としていく。

- 一 高齢者の生活と人権を尊重し、公正で開かれた施設運営に努めます。
- 一 高齢者が地域で安心して生活を送ることができる拠点施設となるように努めます。
- 一 施設は、利用者の社会生活の場として位置づけ、安全で安心した日常生活を送ることができる環境づくりに努めます。
- 一 職員は、常に満足のいただけるサービスが提供出来るように励み、地域社会活動にも積極的に関わり、地域から求められる施設となるように努めます。

2 法人の経営方針

福鳳会は、基本理念の下、ご高齢者やご家族が憂いなく安心して暮らせる地域づくりに貢献していくための基本的な取り組みとして、まず第一に、「敬老愛護」の精神に基づく高質のサービス提供に一層努めていく。また第二に、質の高いサービスを提供する原資を得るために経営の安定化に取り組んでいく。第三に、職員が安心して働ける環境づくりに努めていく。第四に、制度や地域のニーズ変化に対応した高齢者サービスについて不断の研究を行い、対応に努めていく。

これらの取り組みを着実に進めるとともに、平成30年度は、以下の3つの具体的な柱を重点に取り組む。

(1) 敬老愛護、お客さまファーストと安定した経営の両立

(ア) 収入の増加

平成29年度の収支は黒字への転換が見込まれるものの、収支は依然として厳しい状況にある。福鳳会が引き続き質の高いサービスを提供していくためにも、費用に見合う水準の収入が不可欠である。

介護サービスは、通常の事業とは異なって固定費の割合が著しく高いことから、(単価が一定なら)稼働率のわずかな変動が、収支を大きく変化させる特性を持っている。

このことを踏まえ、福鳳会は、主に敬老愛護、お客様ファーストの追究によって、ご利用者、ご家族、地域に「選ばれる福鳳会」を目指し、それに伴うご利用者の増加によって稼働率を向上させていく道を選択し、併せて、サービス水準の向上に伴う単価上昇(加算の取得等)によって収入の確保を図る。このため、以下に取り組んでいく。

職員の資質向上によってご利用者の満足向上を図る

「選ばれる福鳳会」となるため、職員の介護力の向上とともに、ご利用者に不安を与えない接遇やコミュニケーション力の向上等に向けた職員の成長を支援していく。

職員に期待される資質、マインド、スキル、知識等を明示することで、職員個々の努力の方向を示す職能評価制度について、さらに充実、強化していく。

職員の成長に寄与する施設内外の研修の充実や自己啓発研修の支援を行う。

他に少なく、価値のある、特色ある安心のサービスの充実強化を図る

機能訓練の向上など各部門や職種ごとに強みと弱みを分析することで、「他に少ない、価値のある、特色ある安心のサービス」の再発見とその強化に取り組むとともに、部門を超える組織的な対応や予算が必要なものについては、各部門や法人全体が設置する、サービス向上委員会、事故対策委員会、介護力向上委員会、機能訓練推進委員会、栄養管理委員会、褥瘡予防委員会、苦情対策委員会、マニュアル委員会などの場において、重点課題として取り上げ、サービスの一層の充実に努める。

ご利用者に安心していただける環境やサービスの実現に努める

各部門において安全の確保に取り組むとともに、事故対策委員会、栄養管理委員会、感染症対策委員会、苦情対策委員会、災害対策委員会などの場において重点課題を設定し、安全の確保や事故対策の水準の向上に取り組む。

特に入所部門では、利用者の入院が稼働率に直結することもあり、ご利用者の体調管理や安全管理に一層努めていく。

新たなサービス等に取り組む

制度の変化や地域の状況の変化に対応した新たなサービス等に取り組む。

高志の郷デイサービスセンターについては、新しい総合事業通所型サービスAの導入について引き続き検討していく。

訪問サービスセンターについては、市街地のニーズへの対応に向けて、高志の郷サテライトを拠点としたサービス強化に引き続き取り組む。

本館改修の検討に併せて新たな在宅系サービスを検討する。

居宅介護支援事業所等へのPRや連携の強化に取り組む

ご利用者の受け入れについて、居宅介護支援事業所との協力関係の強化に努めていくとともに、福鳳会の取り組みを居宅介護支援事業所などに理解してもらう取り組みを強める。

運営への地域ニーズの反映や関係機関との連携を進める

「運営協議会」における議論やご意見の吸収、反映

地域の関係機関との連携の推進

(イ) 支出の効率化

引き続き冗費の削減に努めるとともに、効率性の高い業務環境や手法の検討に取り組む。

適正な財務管理、予算管理に努めるとともに、冗費の削減に努める。

効率性の高い業務環境や手法の検討を進める。

ICT、各種システムの能力拡充の検討

ロボット、新たな介護支援機器導入の検討等

本館の改築改修等の検討に併せて、新館、別館においても作業効率の高いレイアウトや、職員の負担を軽減する作業環境の検討を進める。

(2) 職員の処遇改善と職場環境の改善

引き続き、職員の質の高いサービスに向けた努力に報い、憂いなく業務に取り組むことができる処遇改善や職場環境の改善に努める。

職員の成長や能力向上努力と給与体系との連携の強化

研修の充実、昇任・昇格基準の明示・透明化に向けた制度の改善を進める。

- ・ 職員のスキルや知識の向上に直接つながる研修の充実・重点化
- ・ 透明性を高め、働きがいを引き出す昇任・昇格基準の設定と運用
給与体系と研修・人材育成体系のリンクを引き続き強める。このため、つぎの点に配慮していく。
- ・ 職員の成長へのインセンティブ強化
- ・ 経験、知識や資格取得へのインセンティブ強化

職員負担を軽減するための人材確保に努める

業務の効率的な運営を図りつつ、職員に過度の負担が生じないように、引き続き人材の確保に努める。

このため、30年度は新卒の採用についての取り組みを強化する。

職場環境の改善に努める

各部門や安全衛生委員会の場合などにおいて職場環境の改善に努める。

腰痛対策の一層の推進

- ・ ロボットなどの介護支援機器の導入推進
- ・ 腰痛を考慮した介護技術の普及研修の徹底
資機材等の整理整頓も含めた危険の除去の取り組み継続

本館改修等の検討に併せて介護負担の低いレイアウト等(トイレ、動線、居室・フロアの配置、見通し等)の検討と具体化

(3) 本館等の改築改修の検討

建設以来30年を経過した本館については施設設備の老朽化が進み、またそのレイアウトや設備は必ずしも現在の介護の仕組みにマッチしない部分がある。このため、つぎの5つの方針の下、全面的な改善に向けて改築改修の設計に着手する。

第一 利用者の生活環境等を改善し、施設の魅力を高める。

介護事業は、利用者の生活を支えるためにある。したがって、施設整備は、利用者の生活環境等の向上が第一でなければならない。

また、特養の入所待機者は、制度変化、特養の増加、競合業種の増加によって大きく減少し、特養はかつての選ぶ側から選ばれる側へ移行しつつある。進行しつつある入居者獲得上の競争において競争力を維持し強化して行くには、介護力の不断の向上とともに、施設の魅力を高めていくことが不可欠である。

このため、居室、トイレ、浴室、共同生活室等の改善や機能訓練などの環境を高める。

第二 職員の働きやすさを向上させる。

職員にとっての働く場の魅力を高めなければ、人材の定着と採用は難しくなり、それがさらに職員の離職をまねく悪循環に直面することになる。

なお、職員負担の軽減は、職員による質の高い介護サービスを可能にすることで、利用者の生活の高質化に寄与するとともに、それは利用者の獲得競争においても他施設に対する優位をもたらす。

このため、レイアウトや設備面で職員の働きやすさを改善する。

第三 介護事業に係わる将来の環境変化を折り込む。

施設は、整備後数十年にわたり使い続けることになる。整備にあたっては、現在のニーズに対応するだけでなく、将来の利用者ニーズの変化など介護事業環境の将来の変化を見通し、そうした環境の変化にも対応できる整備を行う。

第四 整備後の収支が相償うものにする。

施設整備後には、減価償却費を中心に新たな費用負担が増加する。この費用の増加は、施設整備に伴う収入の増加または施設整備(に伴う効率化)による費用の削減によってまかなう必要がある。このため、整備の前提条件として、収支が相償う整備計画の樹立が不可欠である。

第五 地域との連携を強める。

高齢者のケアは、施設のみで完結するものではなく、ご家族、親族、また地域の地元自治会や福祉関係団体、ボランティア団体など地域の団体や住民の協

力・連携が不可欠であり、その必要性は今後ますます高まっていく。

このため、福鳳会は、地域と一体となって地域住民の生活と安心を支える役割を地域の一員として果たすべきことを自覚し、地域との関係を深める施設機能の整備に配慮していく。